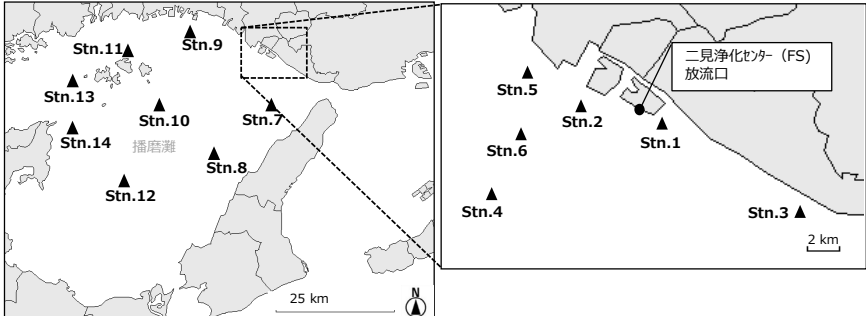


【2-3】

湾・灘の区分	播磨灘
取組の名称	播磨灘の海水中の形態別 CNP 比とシミュレーションモデルによる効果的な栄養塩供給の探索
事業期間及び事業費	事業期間：2017～18年度(平成29～30年度) 事業費：1,000千円
事業体制	兵庫県環境研究センター水環境科、大阪大学大学院工学研究科
事業の背景・目的	播磨灘では、貧栄養化対策として下水処理施設の栄養塩管理運転が実施されているが、海域の水質に与える影響は十分に把握されていない。そのため、栄養塩管理運転を実施している明石市二見浄化センター近傍の常時監視地点の水質変化を調査することにより、単独施設の運転実施による実際の影響を評価した。また、複数施設による影響を数値シミュレーションモデルにより解析し、今後起こり得る複合的影響を評価した。
事業場所の詳細	瀬戸内海播磨灘 
事業内容	二見浄化センター排水と近傍の常時監視地点の水質を2か月毎に調査し、栄養塩管理運転の影響を評価。 兵庫県下20施設の下処理場が栄養塩管理運転を実施した場合の播磨灘全体の水質に与える影響を数値シミュレーションモデルにより解析。
効果・影響のモニタリング手法(時期、場所、項目、把握すべき事項等)	現地調査は、2017年10月～2018年8月に実施。 数値シミュレーションは、水質データが揃っている2015年度を対象に実施。
モニタリングの留意点等	
取組による効果・影響及びその判断基準等	下水処理場の栄養塩管理運転は、海域の広範囲の水質に影響を及ぼし得ることを示した。
現状での課題	解析に用いたモデルの精度向上や栄養塩と水質の関係性についての更に詳細な調査が必要である。
今後の予定等	モデルの精度向上を実施。
取組事例についての発表資料等	1 第53回日本水環境学会年会併設研究集会(2019)下水処理施設の栄養塩管理運転が播磨灘の栄養塩類及びCOD濃度に与える影響について 2 平成30年度瀬戸内海の環境保全・創造に係る研究ワークショップ p8 (2018)播磨灘の海水中の形態別 CNP 比とシミュレーションモデルによる効果的な栄養塩供給の探索
情報提供元	公益財団法人ひょうご環境創造協会